

パダン

バタム

メダン

スマトラの日本人会が団結

アチエに義援金2億ルピア

在メダン総領事館の管轄地域（在留邦人約四百五十人）にあるメダン日本人会、バタム日本人会、西スマトラ州日本人親睦会（パダン）の三日本人会は二十六日、合同で国際医療の非政府組織（NGO）アジア医師連絡協議会（AMDA）アムダ、本部・岡山県 に対し、総額二億二千二百二十五万ルピア（約二百四十万円）のアチエ被災者救済義援金を提供した。メダンとバタムはこれまでもゴルフコンペなどでの交流はあるが、パダンを含めた三日本人会が共同で活動するのは今回が初めて。

「透明性ある」アムダへ

同日午前十時からメダン総領事館で行われた義援金の引き渡しには、橋廣治総領事と宮川勝利領事の立ち会いの下、三日本人会を代表してメダン日本人会の皆川泰典会長と矢合克己さんが出席、アムダ・インタナショナルのフスニ・タンラ・インドネシア支部長に義援金の目録を手渡した。今月七日からバンダアチエ

エでクリニックや巡回医療を行っているアムダのタンラ支部長は「三日本人会からの義援金の提供に大変感謝している。アムダは今後もアチエで医療支援を継続する予定なので、有効に役立てたい」と話した。

二億二千二百二十五万ルピアの義援金の内訳は、メダンが一億ルピア、バタムが六千三百二十五万ルピア、パダンが五千万ルピア。

■日本人学校財産から拠出
メダン日本人会は今年七月に理事会を開き、二年前に正式に廃校になったメダン日本人学校の残余財産から一億ルピアを拠出することを決定。バタムやパダンの日本人会でも同様の支援の機運が盛り上がっていること知り、「ならば一緒にやろう」（皆川会長）とい

うことになった。

■バタムは日本人会清算
現在約五十社の日系企業



タンラ支部長（中央）に義援金を手渡す（左から）矢合さん、皆川会長、橋総領事、宮川領事

が操業するバタムでは、震災後、バタミンドなど工業団地を通じて寄付をする日系企業も多かった。

しかし、工業団地の寄付金は二〇一十シンガポールドル（約六十三万円）と高く、また税関を始めインドネシア式「ビジネス」に日ごろ悩まされているため、インドネシア政府経由では使途が不透明になると懸念し、バタム日本人会（和泉正規会長、会員数二百十九

人)も、他の二つの日本人会と足並みをそろえ、アマダに寄付することにした。時間がかかる募金方式ではなく、各会員企業から委任状を取り付け、日本人会の年間予算の中から一万シンガポールドルを拠出。和泉会長は「シンガポール圏とは言つても、インドネシアに進出してゐる身として、アチエのために何かできることがあればと思つた」と話す。

■従業員がチップ貯める

また、バタムの邦人がよ

く利用するハルモニ・ホテル内の日本レストラン「栗野屋」も独自に千五百シンガポールドルをバタム日本人会を通じて寄付した。従業員の意向でお客からのチップをすべて寄付に回したり、主催するゴルフコンペでも罰金方式で義援金を募つた。

オーナーの栗野郁是さんは「従業員が、アチエの人がかわいそうだと言つていたので、皆で少しでもお手伝いできればと思ひました」と話した。

■パダンの有志も快諾

約五十人の邦人がいるパダンの日本人親ほく会(馬場省一会長)でも、メダン総領事館からメダン、バタムの日本人会が支援活動をすることを知り、会員に声を掛けた。五社の企業・個人から合わせて五千万ルピアの寄付が集まつた。

事務局の照井浩一さんは「もともと、何かできないかと考えていたところだった。会員に呼び掛けたところ、多くの方が快諾してくれました」と述べた。